

地域の伝統芸能伝承のDX化

－対面式とデジタルを組み合わせたブレンディッドラーニングの可能性－

田島 喜代美（非常勤講師）

要旨： 少子高齢化が進む中山間地域では、集落機能が低下し、これが伝統芸能の存続に危機をもたらしている。地域の大学生 NPO 法人は、8 年間にわたり、この問題に取り組んでいる。彼らは、伝統芸能の継承を地域全体の教育課題と位置づけ、過疎地域の小中学校や高等学校にアプローチし、伝統芸能の継承を目的とした教育プラットフォームを構築しようとしている。この教育プラットフォームでは、対面式とデジタルを組み合わせたブレンディッドラーニングを導入し、市内都市部の児童生徒も参加も視野に入れている。この大学生 NPO 法人の取り組みは、地域の過疎化に対処するための伝統芸能継承のモデルとして注目されている。

キーワード：社会起業、ブレンディッドラーニング、中山間地域、伝統芸能、DX

1. はじめに

1999 年から 2010 年にかけて実施された平成の市町村合併により 20 年以上経過した現在、社会経済情勢は変化している。人口減少と高齢化の進行など、地方都市の市町村を取り巻く環境は厳しさを増している。平成 22 年総務省の『平成の合併について』によると、合併による問題点の原因として、「行政と住民との相互の連帯の弱まり」、「財政計画との乖離」、「周辺部の衰退」が挙げられている。もちろん、財政基盤の強化と行政の効率化においては、一定程度評価することができるが、反面、合併した旧町村の方が、合併しなかった町村より、人口が減り、高齢化が進んでおり、周辺部の活力の低下やそれに伴う伝統文化の喪失などを指摘がある。（日本弁護士連合会 2019）

本研究の目的は、中山間地域における伝統芸能の衰退に対処し、将来の継承者や支援者を積極的に育成することである。本研究では、地域の大学生 NPO 法人が ICT を活用し、伝統芸能の継承の教育プラットフォームを構築し、伝統芸能の衰退を防ぐ取り組みについて報告する。

研究の背景

1. 浜松市の中山間地域の無形民俗文化財の現状

浜松市市民部文化財課によると、浜松市の無形民俗文化財を保存継承する団体で構成されている「浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会」には、国・県・市から指定された 13 の文化財を継承する団体と指定を見据えた団体をあわせて、21 の団体が加入している。（表 1）

表1 無形民俗文化財保護団体連絡会の加入団体内訳

種別	団体数
指定	13
選択	2
認定	5
その他	1
合計	21

(出所) 浜松市文化財保存活用地域計画を元に、筆者作成 (令和5年3月現在)

新型コロナウイルス感染症の拡大が続くことで、過去2年間にわたり、浜松市内の無形民俗文化財の半数以上が活動休止の状態にある。この間、少子化や高齢化といった要因と財政難が進行しており、これにより活動再開が難しい状況にある団体も増えつつあり、その危機感が広がっている。「浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会」の前島功会長によれば、「加入している多くの団体が存続の危機を感じている」と述べる一方、「門外不出、女人禁制の文化を頑なに守り抜いている保存会もある」と指摘している。近年の少子化の影響により、これらの伝統芸能を担う主力は60代以上の高齢者となっており、継承者や関係者たちは「後世に伝える」というよりもむしろ「自身の世代で責任を果たす」という意識が強まっており、「次世代に継承できなくても仕方がない」という諦めの考え方が広がっていると述べている。

表2 継承者および周辺の構成 (聞き取り調査から筆者作成)

世代	年齢層	役割
現役	継承者	
次世代	55～65歳	定年を迎えた即戦力
次々世代	30～50代前半	次世代を支える
さらなる未来	小学生、中学生、高校生 大学生	未来を担う

無形民俗文化財において、「次世代」と呼ばれる年齢層は概ね55～65歳と考えられる。定年を迎えた世帯が実践力として文化財の継承および運営に関わることが、重要である。その予備軍として、30～50代前半、そして未来をつなぐ世代として、大学生、小中高生へと世代をつないでいくことが重要である。また地域を核として2時間の移動距離を準地域として許容していくことも、考えられる。

2. 中山間地域の2つの伝統芸能を取り巻く環境

静岡県浜松市内には、地域に根ざした伝統芸能や伝説、神話、祭、習俗等の様々な地域文化を有し、中山間地域に伝えられているものが比較的多い。これまでは、中山間地域の地理的条件は、伝承面においては恵まれた環境であり、数百年間も絶えることなく脈々と受け継がれる要因となった。

しかし、この好条件が中山間地地域の過疎化や高齢化等の進展により、伝統芸能の消滅の危機にあり、さらに、生活様式及び価値観の変化から、次代への継承が困難に陥っている。

浜松市の中心市街地から車で2時間の場所に位置する山々に囲まれた集落、天竜区春野町勝坂地域は、浜松市指定無形民俗文化財「勝坂神楽」¹が420年絶えることなく、地域住民の手により守られてきた。浜松市(2015)によると、現在は廃校となっている勝坂小学校は、明治38(1905)年5月開校し、昭和34年に生徒数62人を最多とした以降、わずか9年後の昭和43年度には廃校となったと述べられている。第二次経済成長期による経済成長の変化により、集落も大きく変化した。

表3は、浜松市の「町字別・年齢別人口表」から、2つの地域の人口推移とその年齢の内訳を示したものである。勝坂集落においては、合併後の統計では合算されているため、周辺を含む地域の人口推移である。合併から現在までの間、急激な少子高齢化が進行していることがわかる。地域に暮らす住民によると、合併後10年が経過した平成27年には、10世帯15人が暮らしていたが、今現在は、高齢者が5人である。といわれており、限界集落から消滅集落への道をたどっている。

一方、3年後に600年を迎える国指定重要無形民俗文化財「川名のひよんどり」²が伝わる、浜松市北区引佐町川名地域は、山々の澄んだ水が山里に注ぎ、豊かな水田が広がる地域である。浜松市の中山間地域のなかでも、比較的中心市街地に近く、合併後から10年そして現在まで、勝坂地域と比べ人口減少率は踏みとどまっているものの、年齢別にみると、若年層から働き盛りの世代の流出が著しく、高齢化が進んでいることがわかる。この影響により、平成22年に川名小学校は浜松市立井伊谷小学校へ統合され、現在は廃校となり、地域に暮らす15人の小学生はスクールバスで通学をしている。

表3 浜松市中山間地域の年齢別人口

天竜区春野町豊岡 ※勝坂含む地域				北区引佐町川名			
年齢	H18	H27	R4	年齢	H18	H27	R4
0-14	41	14	7	0-14	45	31	25
15-64	262	182	59	15-64	271	213	150
65-	239	239	117	65-	141	132	147
合計	542	435	183	合計	457	376	322

(出所) 浜松市.町字別・年齢別人口表を元に筆者作成

2つの地域の年齢別人口の比較から、これまで地域の発展を支え、数百年伝えられてきた地域の伝統文化は、少子高齢化の加速により担い手の流出が、伝統芸能の継承に大きな影響を与えている。伝統芸能継承の最善策は地区人口を増やし集落機能の維持を担保す

¹ 地域にある2つの神社の神前で行われる獅子舞と、神社の間を移動する際の道中舞からなる神楽。舞手は男性だけに限られ、牡丹をあしらった女性の着物に化粧を獅子頭という珍しい衣装が特徴である。

² 国指定重要無形民俗文化財。五穀豊穡、子孫繁栄を祈る祭礼。若者の真冬の水で禊を行った後、堂前で大松明との“もみあい”は、圧巻である。

ることであるが、現実的には不可能であり、担い手を外部に求めるという方策しかないことは誰もが認めるところである。

2. つぎに

「勝坂神楽」及び「川名のひよんどり」保存会は、地域や世代を超えた継承活動に積極的である。両保存会は地域外の若者である、地域の大学生に門戸を開いた。「勝坂神楽」、「川名のひよんどり」は、伝統芸能の舞やお囃子の演者を地域外の若者に開放している。平成 27 年度に、「勝坂神楽」は、道中舞を男子大学生に開放している。さらに、翌年は女子学生に、お囃子の笛、翌々年の平成 28 年には太鼓の演奏を提案されて、それぞれ 2 名の女子学生が応じた。新型コロナ禍の中止後の令和 3 年には、保存会会長から女人禁制を頑なに守っていた舞を、女子学生に演じて欲しいと提案があった。中山間地域の伝統芸能は、同じように閉鎖的な伝統芸能を以下のように開放している。

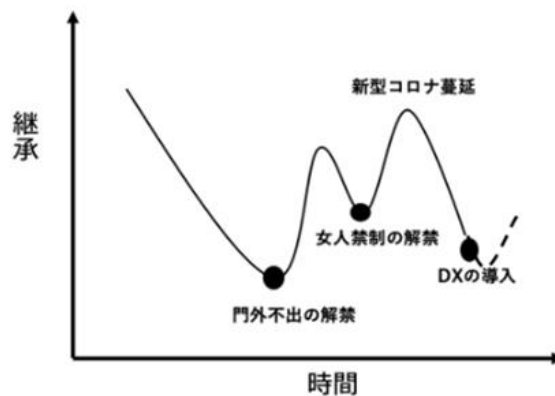


図 1 地域外への開放

DX 化の導入：伝統芸能の継承への取り組み

総務省は、地域文化のデジタル化を推進している。平成 15 年版情報通信白書によると、「生活様式の変化や高齢化の進展に伴い、広い意味での地域文化の保存・継承が急務となってきており、文化財等をデジタル情報として保存する取組がそのための有効な手段である。」と認識されつつある。人と人の交流が困難な中で、縮小しながらも絶えることなく継続したのが、勝坂地区の人々から大学生への伝統芸能の継承活動であった。何百年もの間、地域住民の手で守られてきた無形民俗文化財は、絶えることなく守られ続けてきた。

しかし、令和 2 年の新型コロナウイルス感染症の拡大により、その価値が大きく変化した。その中で、伝統継承には ICT 技術の活用が大きな役割を果たした。これまで現地に訪れる事でした得られなかった体験を、ICT 技術により外に開くことを、保存会から大学生に託されたことは、新たな可能性を見いだすこととなった³。地域の子どもを巻き込

³ 「勝坂神楽」に関しては、神事の配信を決め、首都圏を中心にオンラインイベント運営サービスを活用して、オンライン参加者を募集した。「川名のひよんどり」は、令和 2 年度は、無観客にして、若蓮による「火取り」のみを実施して、伝統芸能である舞を縮小して実施した。神事に関しては、旧川名小学校にメディアスタジオを設置し、YouTube にて 10 時間に渡り配信した。「勝坂神楽」、「川名のひよんどり」とともに、大きな期待が寄せられた。

んだ継承を目指し、VR 技術を活用したデジタル教材づくりに着手した。

3. さらに

ICT を活用した伝統芸能継承を目的とした教育プラットフォームの構築

NPO 法人わたぼうしグランドデザインは、平成 27 年移行、勝坂神楽及び川名のひよんどりの継承活動の支援として、官民連携を進めるため天竜区春野町豊岡勝坂、北区引佐町川名の地域の小中学校をはじめ、地域の協働センター、地域企業等、多様なセクターに働きかけをしている。その推進活動の一環として、浜松市地方創生政策アイデアコンテスト 2021⁴ に伝統芸能の DX 化による継承活動のテーマを提案している。

2023 年には、デジタル技術を活用して伝統芸能の保存・継承するためのプラットフォームを開発し、プラットフォーム上で、教育プログラムや教材を公開する予定である。また、地域の小中学校・高等学校を伝統芸能の継承を目的とした若い児童・生徒に伝統を継承する機会や手段を提供することになっている。

4. おわりに

本研究では、コロナ禍の中において、中山間地域に指定されている北区北部の「川名のひよんどり」及び天竜区の「勝坂神楽」を対象として、伝統芸能の存続の可能性について、8 年間に渡り大学生 NPO の継承活動の継承を観察してきた。参加観察から伝統芸能を取り巻く状況及び課題を勘案して、将来の伝統芸能 4 つのシナリオに分類した。デジタル技術の活用と継承者の制限を軸に分析をおこなった。(図 2)

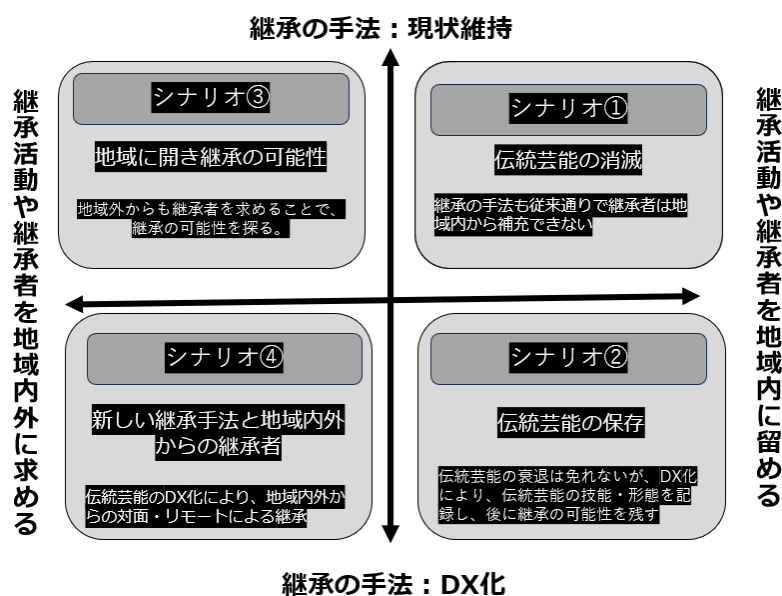


図 2 伝統芸能存続の 4 つのシナリオ

⁴ 浜松市は、向こう 5 年間程度で市が取り組める政策や事業のアイデアを公募する「地方創生政策アイデアコンテスト 2021」を 2021 年 9 月 11 日に開催した。NPO 法人わたぼうしグランドデザインは、地域の伝統芸能を DX で推進することをテーマとした「伝統芸能イノベーション プロジェクト-もはや、過疎地域とは言わせない。伝統芸能の復元力を活用する-」で最優秀賞を獲得した。

NPO 法人わたぼうしグランドデザインは、デジタル技術を活用しながら、将来の継承者の候補として、当該地域の周辺地域の児童生徒の参加の枠組みの構築し、浜松市内の当該地域の外部からも柔軟に参加を募る、対面とデジタルを組み合わせた新しい伝統芸能継承の形態として、ブレンディッドラーニングであるシナリオ4を提案している。

以下に、NPO 法人「わたぼうしグランドデザイン」が、将来予測されるシナリオ1からシナリオ4までの各シナリオに対応するための活動内容を報告する。

シナリオ1 伝統芸能の消滅

伝統芸能の担い手が高齢で減少することに加えて、継承者も集落から離れて祭りに参加しない現状が続くと、伝統芸能は消滅する可能性がある。

NPO 法人わたぼうしグランドの試み

「勝坂神楽」

令和3年度に引き続き、令和4年度も神事のみを執り行い、伝統芸能の奉納が実施できない状況が続いた。令和4年12月23日に勝坂自治会定例会において、自治会会長は集落全体が7世代のみになり、今後は保存会のみでは統芸能の勝坂神楽の実施は実施することが困難であり、勝坂神楽の舞、お囃子等の全てを伝えることを前提として、勝坂神楽を継承する。

「川名のひよんどり」

令和3年度は、神事のみを執り行い、令和4年度は、祭礼を一部、縮小して実施した。川名のひよんどり保存会は、将来の継承に不安を抱えながらも、すぐに消滅の危機があるわけではない。NPO 法人わたぼうしグランドは、本来、若蓮による「火取り」及び「水垢離（みずごり）」の役割を任なっている。舞については、「おんばの舞」、「はらみの舞」の2つの舞を演じることを期待されている。

シナリオ2 シナリオ2 伝統芸能の記録・保存

伝統芸能のパフォーマンスや資料をデジタル形式で収集・記録するなど、デジタルアーカイブを構築する。ビデオ録画、音声録音、写真撮影、文章のデジタル化などを含み、アーカイブは高品質なデジタルフォーマットで保存され、将来の世代に伝承される可能性に備える。

NPO 法人わたぼうしグランドの試み

「勝坂神楽」

NPO 法人わたぼうしグランドは、3年間に渡り、神事を記録している。デジタル技術やネットワーク技術を用いて、勝坂神楽の神事をライブ配信している。

「川名のひよんどり」

令和2年度から、神事を含めて、デジタル技術やネットワーク技術を用いて、神事、火取り、舞を記録し、ライブ配信をしている。

シナリオ3 地域に開き継承の可能性

伝統芸能を集落以外の地域に開き、継承者を求める。

NPO 法人わたぼうしグランドの試み

「勝坂神楽」

勝坂集落の周辺地域の小中学校(気田小、犬居小、春野中学校)の児童生徒から構成される「春野ふるさと少年少女教室」の児童生徒を対象として、勝坂神楽の当日に、勝坂神楽保存会に対して、ICTを活用したリモートで舞を披露できた。

「川名のひよんどり」

川名地域の児童を対象にして川名地域への愛着を育むことを目的として、「かわなホームズ」を結成し、児童間の交流を図るためにレクリエーションなどの活動を実施し、地域の子どもたちに伝統芸能への参加意識を高めている。

シナリオ 4 新しい継承手法と地域の内外からの継承者

過疎化が進む当該集落の周辺の存続集落の小中学校及び高等学校が、行政セクターと連携して伝統芸能継承の教育プラットフォームに参加して、児童生徒が継承するシナリオである。

NPO 法人わたぼうしグラウンドの試み

「勝坂神楽」

勝坂神楽保存会には、地域の児童・生徒が継承活動に参加できる仕組みづくりを提案している。地域の小中学校の参加については、小中学校の在籍者で構成されている春野ふるさと青少年教室や地域の生涯学習、芸術、文化を推進する春野文化センターと交渉している。

「川名のひよんどり」

前述した「かわなホームズ」に加えて、浜松市内都市部の児童生徒が参加できる枠組みを川名のひよんどり保存会と継続的に相談している。

本報告の終わりに、浜松市による伝統文化の将来の理想を示したい。浜松市は、平成26年12月に市の最上位計画である総合計画（浜松市総合計画）として、30年後の「世代を通じて共感できる未来の理想を創造する」浜松市未来ビジョン（基本構想）を策定している。ここでは、「1 ダースの未来（理想の姿）」の中の5番目が「つなぐ」であることが示されており、以下に一部を紹介する。（下線は筆者）

若者を中心に、地域を越えて、伝統文化を継承するサークルが立ち上がるなど、天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えています。また、ひよんどり、おくない、田楽、歌舞伎など多彩な伝統芸能が、次世代へと脈々と引き継がれており、全国から熱い視線を集める地域となっています。これらの伝統 芸能は、まちなかでも、イベントとして披露される回数も多く、観光資源としての役割を担っています。歴史的価値の高い伝統芸能は、私たち市民にとって大切な宝物です。

「1 ダースの未来（理想の姿）」において、地域の伝統芸能は地域にのみ帰属するものではなく、地域を超えて継承されるべきであり、市民全体が楽しむことができる観光資源として認識されている。

参考文献

総務省. 「『平成の合併』」について (平成 22 年 3 月) [https://www.soumu.go.jp/gapei/pdf/100311_1.pdf] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

日本弁護士連合会. 公表資料「第 3 2 次地方制度調査会で審議中の圏域に関する制度についての意見書」(2020 年 3 月 18 日) [<https://www.nichibenren.or.jp/>, https://www.nichibenren.or.jp/library/pdf/document/opinion/2020/opinion_200318.pdf] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

浜松市. 浜松市文化財情報 発行: 浜松市文化財課 95 号「旧気多村立勝坂小学校が国の登録建造物になります!」(2015 年 12 月 15 日) [<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/bunkazai/info/bunkazaijyoho95.html>] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

浜松市. 浜松市役所総務部文書行政課「町字別・年齢別人口表」(令和 2022 年 4 月 1 日現在) [https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gyousei/library/1_jinkou-setai/007_nenreibetsu.htmlk] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

浜松市. 浜松市役所天竜区区振興課「10 月 26 日、勝坂神楽が行われました。」(2020 年 3 月 27 日) [https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/tn-shinko/dekigoto/141026_2dekigoto.html] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

浜松市. 浜松市役所市民部市民協働・地域政策課「【令和 5 年】川名ひよんどり」(2023 年 3 月 14 日) [<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/shiminkyodo/tyuusankanevent/kawanahiyondori.html>] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

浜松市立井伊谷小学校. [<https://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/iinoya-e/>] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

内閣府. 「Society 5.0」 [https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

浜松市楽器博物館. [<https://www.gakkihaku.jp/>] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

飯田市美術博物館. プラネタリウム. [<https://www.iida-museum.org/planetarium-2/>] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

総務省. 平成 15 年版情報通信白書「第 3 章 (6) 地域文化デジタル化事業の推進」 [<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h15/html/F3504600.html>] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)

浜松市. 浜松市役所企画調整部企画課「浜松市総合計画」(2021 年 10 月 20 日) [<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kikaku/totalplan2015/index.html>] (最終検索日: 2022 年 8 月 30 日)